

事例 8 早生樹(テーダマツ)に関する現地検討会の開催

(関東森林管理局 天竜森林管理署)



- ・ 静岡県 ^{はままつ} 浜松市 ^{きりやまだい} 霧山第一国有林
- ・ (左) 現地検討会(令和 7(2025)年 12 月)
- ・ (右) 天然更新によるテーダマツの生育状況(令和 7(2025)年 12 月)

持続的な林業経営のために、下刈りなどの育林経費低減が重要です。天竜森林管理署では、おおむね 30 年程度で伐採・利用可能な早生樹であり、合板用材として活用可能な強度を有するテーダマツの施業体系確立に向け、取り組んでいます。

静岡県では、1960 年代に民有林含め、テーダマツが約 160ha 植栽されています。同署でも、管内にある 70ha のテーダマツ人工林を活用して、下刈り回数の違いによる初期成長やシカ食害の状況等を調査しており、植栽木の苗高は 2 年目で 2 m 以上と、下刈り回数の削減につながることを確認されました。また、テーダマツ伐採跡地においては、稚樹の自然発生が確認されたことから、天然更新の可能性も調査しています。

こうした成果を踏まえ、令和 7(2025)年 12 月、林業関係者 53 名を対象にした現地検討会を開催し、テーダマツの生育や天然更新の状況等について調査結果を共有しました。参加者からは、テーダマツの収穫実績や 30 年後の収益見通し、風倒リスクなどの質問や意見が出され、早生樹に対する関心の高さが伺えました。

同署では引き続き、公益的機能の発揮に配慮しつつテーダマツの施業体系確立に向けた実証を進め、森林資源の循環利用に向けた取組を推進していきます。